

指導案

令和5年 ○月 △日

交通教育NPO
OSC Nじてんしゃスクール
代表 片山 昇

〇〇小学校 OSC N自転車交通安全教室

1、学年 3年生 (各クラス 45分間 体育館実施)

2、目指す子どもの姿

交通社会において自分の命を自分自身で守ることができる子ども。

これまでに近隣小学校の教職員を対象に交通安全教育についてのアンケートを行った。全9校中5校が、交通安全指導で困っている点について、「教師の目が行き届かない場面での児童の危険な交通行動」を懸案事項としてあげていた。

目が行き届かない理由としては、歩行時については「登校時は、職員の勤務前にあたるため」「校内でのことと違い、教師の目が届かないため」「常に見守っているわけではないため」などがあげられている。また、自転車乗車時は「学校外のことなので、実態把握ができない」との回答も多く見られた。

これらは、愛知県内にとどまらず、全国の多くの学校に当てはまることであろう。教師の目が届かない所、また、保護者の同伴がない場所でも、子どもが安全に、この交通社会の中で生きていくために必要な教育は何かに焦点をあてることが重要と考える。

その一つに、子どもが自分の命を自分自身で守るための安全確認の習慣を身につけることがあげられる。そして、その子どもたちが10年後、20年後に、自動車やオートバイを運転する時に、自分の命、そして他の人の命を守る行動がとれることを期待する。

3、本時における「安全確認を自分事として捉えることができるようになる学び」について

大人は子どもに「車に気をつけるのよ。」「よく見てね。」「飛び出さないのよ。」と声を掛けることがある。子どもがそれを自分事として捉え「何を、どう気をつけるのか。」「どこをどう見るのか。」「飛び出さないためには、どうするのか。」を理解し、交通行動の場面で自ら気づき、実践できるようにすることが重要である。

この授業では、「なぜ、飛び出してしまうのか。」を児童自身が考えることで、交通社会における行動を自分事として捉えることを学ぶ。

自分事として捉えることができなければ、大人に言われても「わかっていたけど、できない」、あるいは、交通社会においてとるべき行動を理解していないので、そもそも「わかっていないから、できない」という行動結果をまねく。

児童自身が考えることで「わかっているから、できる」という行動を自ら行えるようになることが重要である。登下校時やそれ以外の時間や場所、教職員や保護者同伴の有無などにかかわらず、事故にあわないために、児童自身が自分事として捉え、行動変容につながるような学習をしたい。

4、「安全確認を自分事として捉えることができるようになる学び」を実現する為の手立て

交通社会において、安全に歩行者や自転車運転者として行動する為に、いかにして自分事として捉えることができるか、ということが重要である。そのために、小学校の先生方や交通指導員の方々にヒヤリングを行い、児童にとって身近な校区内道路状況の写真を撮影。それを使用し、起こりうる事故について考えさせる。そして、交差点で飛び出しそうな要因について自分ならばどんな場合か、を具体的に考えさせることで、自分事として捉える第一段階とさせたい。

また、児童は、安全確認の仕方を、教室内で実際に動作化して学ぶ。
このように、児童が自分事として捉える機会をもつことで、「わかっているから、できる」という交通行動の変容につなげたい。

5、目標

- ・ 起こりうる交通事故の場面について考える。
- ・ 「なぜ、飛び出してしまうのか。」を自分事として考える。
- ・ 事故防止のための安全確認動作を身につける。

6、展開 (45分完了)

※ パワーポイントで写真等を提示しつつ授業をすすめる

児童の学習活動	指導上の留意点	時間
1 導入	交通安全について考える時間であることを告げる	1分
2 普段から生活している町の場面(写真)から日々の交通行動を想起する ・「空から見てみよう。」	自分たちの住んでいる地域の道路状況を提示することで、より具体的かつ、自分事として考えることができるようにする。	3分
3 本時のめあてを知る	「止まって安全かくにん」 「じてんしゃに乗る時のじゅんぴ」	1分
4 クイズ①に答える。(アイスブレイク) ・カギ、ペダル、ブレーキ	自転車の安全運転につながるブレーキ整備の重要性にふれる。	3分
5 クイズ②を考える 見通しの悪い交差点の場面(写真)を見て発生しうる事故について考える。 ・飛び出して、自動車・オートバイ・自転車・歩行者と衝突 ・けが・死亡 様々な校区内の交差点や横断路の写真から学ぶ	視界にあるものだけではなく、視界に入っていない部分の状況を予想することの重要性に気づき、「止まる」ことの意味を理解させる。 ・場面の上からの絵を見て、見通しの悪い交差点において児童からは見えていない部分を把握する。自動車・オートバイ・自転車・歩行者の存在。 ・飛び出さず「止まる」ことの重要性を理解する。	3分
6 自分が飛び出しそうな要因について考える。 止まらないのは、どんな時だろう。 ・早く家に帰りたい。 ・友だちとのおしゃべりに夢中。 ・友だちやボールを追いかける。 ・他のことを考えて、ウキウキしている。 ・約束に遅れそうで、あわてている。	自分の性格やありうる状況設定を含めて考えさせることで、自分事として捉えさせる。 「わかっているけど、できない」から「わかっているから、できる」への変容につなげる。	5分
7 安全確認動作を身につける。 ・「右左右後ろ」の動作の意味を考える。 ・「右左右後ろ」の動作のみを体験する。 ・目視した対象物(車両)を声に出す	後ろを確認する必要性を気づかせる。繰り返し動作をすることで身につけさせる。 自動車・バイク・自転車などの対象物(絵)を確認させ声に出させる	2分
8 ヘルメットの大切さの話を聞く。	命を守るため、ヘルメット使用の重要性に気づかせる。 (警察官の話)	2分
9 ヘルメットの正しい装着方法を知る。	3つのポイントを説明する。	2分
10 <セーフティーコース> 自転車運転のつもりで、歩行による安全確認動作の習得。一人ずつ体験する。 ※指導者の自転車乗車手本とエアハンドルによる手本を見て学ぶ。後に各児童体験。	「止まれ」の標識がない所でも見通しの悪い所、よい所でも止まって安全確認動作をすることを身につけさせる。	20分
11 まとめ と ふりかえりシート伝達	帰りの会等にふりかえりシートへ記入することを伝える	3分